

肺炎罹患時の咳嗽に胃食道逆流症(GERD)の関連性が強く疑われた症例

医仁会武田総合病院 総合診療科 松原英俊

【症例】40代男性。

【主訴】全身倦怠感、発熱

【現病歴】7月2日午前より軽度の全身倦怠感あり徐々に悪化。昼食以後固形物はとれず。7月3日倦怠感が強く出勤するも早退。6pm頃より悪寒戦慄。仮眠後体温38.9℃。軽い嘔声、排痰はあるも、ほとんど咳はなかった。肺炎と考えクラビット500mgを内服開始。7月5日出張。経口補液を続け5pmまで勤務後、食欲がもどり53時間ぶりに固形物を数口食べた。帰宅後胃の不快感あり1:30amまで坐位で休むが臥位になるとせき込み寝れず。あきらめ坐位で休むと数分で咳が鎮まる。スクラルファート、五苓散2.5g内服。10分後就寝しても咳は出ず。7月5日出勤。胸部XPで肺炎を確認。1:30am咳嗽をしながら就寝。4:30am咳嗽のため覚醒。坐位や立位で明らかに改善。五苓散5g、半夏厚朴湯2.5gを同時に内服。坐位で徐々に改善。10分で落ち着き朝まで熟眠できた。7月6日朝食欲なし。時折軽い咳。12:40am五苓散5gのみ。少しこみ上げ感があるも臥床。数回の咳の後入眠できる。7月7日夜仕事中に咳発作ありスクラルファートを2回内服で治まる。夜五苓散2.5g、眠前に5g内服就寝。臥床時にこみ上げ感、1, 2回咳をして寝る。7月8日胃の停滞感あり。昼食40%程度、その2~3時間後に少ししつこい咳があるも自然に治まる。就寝前は咳のこみ上げ感までで1回咳をしてとまる。7月9日ほぼ復調。食後2~3時間後に3, 4回の乾性咳嗽が数セットとまる。眠前に五苓散2包、この日初めて夜間咳嗽がなくなった。

【考案】肺炎に合併した咳であったが、鎮咳剤は必要なくGERDとの関連性が認められた。